

全経簿記検定試験 2 級商業簿記 予想問題

新形式の出題問題を作問いたしました。あくまで「予想」ですので、ご理解の上、各自のご判断でご参考ください。

予想問題

問題 1 次の仕訳をもとに、仕訳の対象となった取引あるいは決算手続きの内容として最も適切なものを 1 つ選び、番号を記入しなさい。

(1)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
買掛金	800,000	受取手形	450,000
		当座預金	250,000
		現 金	100,000

1. A 株式会社は、買掛金 ¥800,000 の支払いにあたり、¥450,000 は B 社振出しの約束手形を裏書譲渡し、¥250,000 は当社が小切手を振り出し、¥100,000 は C 社振出しの小切手で支払った。
2. A 株式会社は、買掛金 ¥800,000 の支払いにあたり、¥450,000 は当社が約束手形を振り出し、¥250,000 は当社が小切手を振り出し、¥100,000 は現金で支払った。
3. A 株式会社は、買掛金 ¥800,000 の支払いにあたり、¥450,000 は取引先の了解の下、電子記録債権の譲渡記録を行い、¥250,000 は当社が小切手を振り出し、¥100,000 は C 社振出しの小切手で支払った。
4. A 株式会社は、買掛金 ¥800,000 の支払いにあたり、¥450,000 はかねて B 社に備品を廃却した際に受け取った B 社振出しの約束手形を裏書譲渡し、¥250,000 は当社が小切手を振り出し、¥100,000 は現金で支払った。

【解答】 1

(2)

借方科目	金 額	貸方科目	金 額
水道光熱費	36,000	売掛金	9,000
現 金	6,000	雑 益	33,000

1. 決算にあたり、現金有高と帳簿有高を照合したところ、帳簿有高は ¥351,000 で実際有高は ¥372,000 であった。原因を調べたところ、水道光熱費 ¥36,000 が記入漏れであることは判明したが、残額は原因が判明しなかった。
2. 決算にあたり、現金有高と帳簿有高を照合したところ、帳簿有高は ¥372,000 で実際有高は ¥351,000 であった。原因を調べたところ、水道光熱費 ¥36,000 が記入漏れであることは判明したが、残額は原因が判明しなかった。
3. 決算にあたり、現金有高と帳簿有高を照合したところ、帳簿有高は ¥351,000 で実際有高は ¥372,000 であった。原因を調べたところ、水道光熱費 ¥59,000 を支払った際に ¥95,000 と誤記入していたことが判明したが、残額は原因が判明しなかった。
4. 決算にあたり、現金有高と帳簿有高を照合したところ、帳簿有高は ¥372,000 で実際有高は ¥351,000 であった。原因を調べたところ、水道光熱費 ¥95,000 を支払った際に ¥59,000 と誤記入していたことが判明したが、残額は原因が判明しなかった。

【解答】 1

問題2 次の取引を仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切なものを選ぶこと。

リース資産 リース負債 **** ****

1. カラーコピー機を年間リース料¥800,000（後払い）、期間5年間の条件でリース（ファイナンス・リース取引）を用いて調達することとした。なお、会計処理は利子込み法によること。

借方科目	金額	貸方科目	金額
リース資産	4,000,000	リース負債	4,000,000